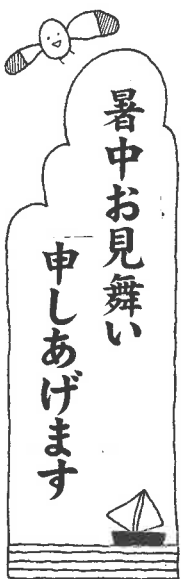


西本章議会報告

福山市議会
市民連合

2021年
7月1日
NO. 6

編集 西本章後援会事務所
福山市引野町一〇五二二一
TEL 〇八四(九二六) 五四四一
FAX 〇八四(九二二) 五二二二



暑中お見舞い
申しあげます

コロナをめぐる全国状況

6月20日をもって10県に出されていた緊急事態宣言は沖縄県を除き解除となりました。ただし、広島県・岡山県以外では引き続き、まん延防止が継続されています。全国的にもコロナワクチン接種が進んではいますが、変異株に見られる不安定要素もあり、警戒態勢は継続して行なわれなければなりません。そして何よりもワクチン接種を希望する全ての人が一日も早くワクチン接種を受けられる体制を整えられなければなりません。そのことが市民生活の安心・安全に繋がってくると思えます。こうした状況にも関わらず、オリンピック・パブリックが開催されようとしていることは理解できません。当初、国が掲げていた開催目的である、東日本大震災の復興の為でもなければ、新型コロナウィルスとの闘いに勝利した意味でもありません。その動向に注視しなければなりません。

福山市の先進的取り組み



今議会の補正予算で、新型コロナ対策として、円滑なワクチン接種に向け、75歳以上の高齢者や障がい者を対象に、接種会場までのタクシー利用料を助成する取り組みをしました。助成額はタクシー乗車1回(片道)につき、1,000円を上限とし、計4回で最大4,000円となります。全国的にも先駆的な補助事業となりました。他にも、新型コロナ患者を病院に移送するための車輛を2台追加整備しました。

また、ワクチン接種(集団接種・大規模接種)予約に関する相談や、スマートフォンなどからのインターネット予約申請の支援を市内の76公民館、3交流館、13コミュニティセンター、館で受けられることになりました。申請方法等で相談に来た市民からは大変喜ばれています。より身近な距離で市民を支援するこの取り組みも他の市町村が参考にできるものになりました。

これらの効果的な取り組みから分かるように、市民に寄り添う市政は高く評価されるものです。

5月臨時議会にて副議長に就任

5月13日に開催された臨時議会では、新型コロナウィルス感染症に対応した補正予算が可決されました。その後、副議長の辞任に伴う副議長選挙が行われ、私を含め2名が立候補し、投票の結果、私、西本章が34票(議員38名)で当選しました。

副議長となり、もうすぐ2ヶ月が来ようとしています。市の情勢が刻々報告され、新しい取り組み等についても事前に報告があります。今までは異なる日々業務に加え、議会においては、代表者会議や議会運営委員会への参加、ふくしま議会だより編集委員会委員長への就任

など、副議長に充てられた職務がたくさんあります。市と議会の動きを十分に把握するために、1日1回は議会へ登壇するようになっています。まだまだ、勉強しなければならぬことが山積みです。

6月定例議会 一般質問における議事進行を全う

定例議会の一般質問は4日間に及びました。その際、議事進行を議長と副議長が交代で行うようになってきました。通常は午後から副議長が議長の職務代行として議事進行を行います。初めの経験でしたが、市事務局の支えもあり、無事議事進行の職務を全うすることができました。質問する議員としてこれまで見えてきた一面と副議長として会議全体を見る新たな一面とでは、見える景色が大きく異なっていました。改めて副議長の重責を感じました。

6月定例議会の予算特別委員会委員長に選出

予算特別委員会正副委員長選挙により、委員長に選出されました。これまでは委員会一般質問や討論を積極的に行ってきましたが、今回は委員長として議事進行を行い、本会議最終日には委員長報告を行いました。

6月定例議会一般質問 私の原稿から

- 今議会の質問では、
- ① 生理の貧困に対する支援策について
 - ② 路上喫煙、たばこのポイ捨て防止について
 - ③ 障がい者、障がい児の歯科医療について
 - ④ 学習端末について
- の4項目を担当しました。紙面の関係で2項目のみ報告します。



①点目は、生理の貧困についてです。この問題は、コロナ禍で厳しい生活を送る女性の声から顕在化してきたものです。これまで議会では取り上げられる事はありませんでしたが、これは女性だけの問題ではなく、男性の立場からもこの問題と向き合う必要があります。このことを踏まえ、行政としての課題と学校における性教育の課題について問い質し、今後の方向性の提言を求めました。

②点目は、障がい者の歯科検診についてです。歯科治療で全身麻酔が必要な障がいがある子の母親からの切実な声をもとに、市の在り方を問いました。市行政の課題と認識させ、福山の障がい者の全身麻酔による治療が受けられる場の早期実現を今後も粘り強く求めていきたいと思います。

